



# 医療安全管理ニュースレター

日本医科大学千葉北総病院  
(第36号)

発行:平成30年4月1日



## 安全な手術を提供するために

中央手術室 リスクマネジャー 菅野怜奈



当院中央手術室は24時間、365日手術の受け入れ体制を取っており、年間約6500件以上の手術を行っています。対象は、全ての診療科、全ての年代にわたっています。手術前の様々な検査や準備の下に行われる予定手術に加え、救急車やドクターヘリで搬送された患者さんのために緊急に行われる手術もあります。



### 【国内における過去の事故事例】

手術室安全というテーマですので、国内で報告されている手術室に関連した過去の事故事例を調べてみると、日本医療機能評価機構に寄せられた医療事故報告では次のような報告の項目があげられています。

- ☆患者取り違え
- ☆手術部位の左右取り違え
- ☆抜歯部位の取り違え
- ☆体内にガーゼが残存した事例
- ☆病理検体に関連した事例
- ☆眼内レンズに関連した事例
- ☆未滅菌の医療材料の使用
- ☆電気メスによる薬剤の引火
- ☆光源コードによる熱傷

これら国内の事故報告を受け、同様の事故が当院で発生しないように、私たち手術室看護師は患者さんが安全に、そして安心して手術が受けられるように様々な対策活動を行っています。

### 【手術前の事故防止対策】

過去の報告事例でも、「患者の取り違え」「手術部位の左右取り違え」は、手術患者さんの生命を脅かす重大事故です。このような重大事故を起こさないためにも当手術室では、手術前に担当医師による患者さんへの説明と手術部位のマーキング(印づけ)や手術室入室時に患者さん本人による氏名、生年月日、手術部位の声だし確認とリストネームバンド認

証を看護師と共に実施しています。

### 【タイムアウトの実施】

更に、手術開始直前に手術担当医師、麻酔科医、手術室看護師の3者で「タイムアウト」を行っています。タイムアウトとは、手術に係わる全員が一旦手を止めて確認作業を行うことです。これにより、手術を受ける患者さんに関する情報を関係者全員で再確認し、共通認識を持った上で手術を実施することができます。全身麻酔での手術とは違い、局所麻酔の場合は患者さんの意識がある為、患者さん自身にも「タイムアウト」に参加をお願いしています。



### 【手術後の事故防止対策】

「体内にガーゼが残存した事例」も重大事故であり、手術前後での器械・ガーゼ類の数合わせは、慎重、且つ、基準に則り、数回にわたり医師と看護師で実施しています。

同様に手術前後で縫合針の数が確実に合っているかの確認も重要です。数が合わない場合は医師・看護師総出で探索し必ず発見しなければなりません。極小の縫合針もありますので取り扱いには細心の注意を払っており、手術関係者の心身のストレスも尋常ではありません。

しかしながら手術は患者さんやそのご家族にとり人生の中でもとても大きな出来事です。たくさんの思いと不安がある中で、手術を決心された患者さんが安心して安楽な手術を受けることができるように、当手術室ではこれからも担当医を始め、麻酔科医、手術室看護師、臨床工学技士、薬剤師などの多職種がチーム一丸となり、全力で手術室安全に取り組んで参ります。

### 【関連ホームページ】

『日本医療機能評価機構』 <https://jqhc.or.jp/>

『日本麻酔科学会』(WHO 安全な手術のためのガイドラインより)  
[www.anesth.or.jp/guide/](http://www.anesth.or.jp/guide/)

# セルフケアとインフルエンザ



感染制御部 看護師長 感染管理認定看護師 渡辺郷美

## 1. 2017/2018年のインフルエンザ

2017/2018シーズンのインフルエンザ流行は、これまでのシーズンとは異なりました。

厚労省によると、米国やオーストラリア、フランスでも患者数が最多となるなど、世界的にインフルエンザが流行し、さらに、例年はB型に先駆けてA型が12月から2月にかけて流行するところ、A型（A/H1N1pdm2009：2009年流行のインフルエンザ）と並びB型（山形系統）の流行が拡大しているのが特徴でした（表1）。

そして、そのB型（山形系統）にJapanese flu（日本かぜ）という病名をつけた海外のマスコミがあるほど、日本型のインフルエンザがこれほど流行した経験はありませんでした。

## 2. インフルエンザとは

インフルエンザウイルスはウイルス粒子内の核蛋白複合体の抗原性の違いからA型とB型とC型に分けられ、このうち流行的な広がりを見せるのは、A型とB型といわれています。また、最近では、D型がヒトを除く哺乳動物に確認されています。

風邪との違いは、インフルエンザの場合は、インフルエンザウイルスによる全身症状（倦怠感・関節痛・高熱・悪寒など）を伴う上気道炎症状（咳・くしゃみ・鼻水・咽頭痛など）が多いですが、風邪はインフルエンザ以外のウイルスまたは細菌が原因で、症状も比較的ゆるやかに出現することが多いといわれています。

## 3. 流行前のインフルエンザワクチン接種

科学的な予防法として世界的に認められているも

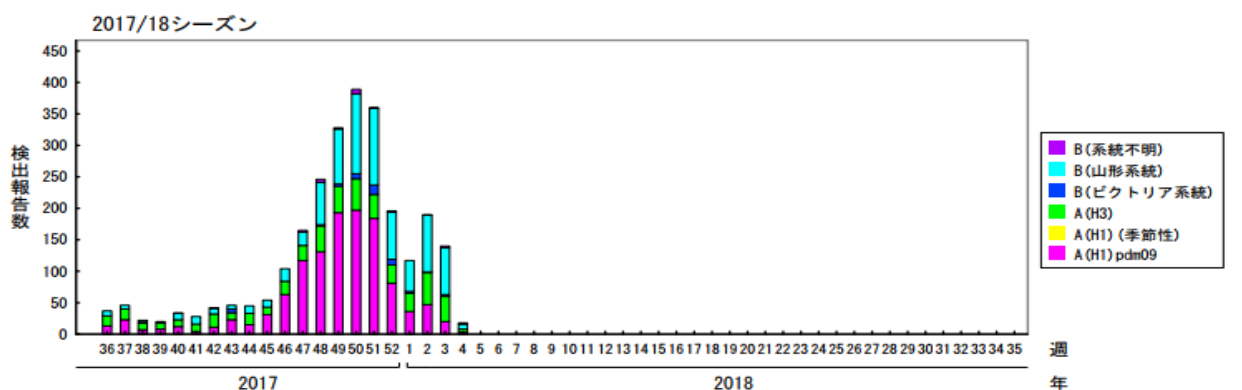
のは、インフルエンザワクチンです。インフルエンザウイルスは毎年のように変異しながら、流行を繰り返すため、インフルエンザワクチンに使用するウイルス株も、厚労省が決定しワクチン製造が行われます。それゆえに、今年のワクチンはハズレと揶揄される話も聴きますが、インフルエンザ発生率は、2.5倍程度の差で接種しなかった人のほうが接種した人より高いといわれています。そして、感染予防効果は1年間持続しないといわれているため、予防接種は毎年の接種を、時期としては接種後効果を発揮するまでに約2週間かかることから、2回接種が推奨されるお子さんや、高齢者、感染しやすい慢性疾患（糖尿病など）を治療中の方は、流行が始まる12月より前に計画的に接種することをおすすめします。ワクチン接種を受けた高齢者は死亡の危険が1/5に、入院の危険が約1/3から1/2に減少することが期待できるとされており、市町村での助成制度もあります。

## 4. 流行後の治療とセルフケア

インフルエンザ治療は医師の処方による抗インフルエンザ薬治療を早めに行うことで、インフルエンザウイルスの増殖をおさえ発熱などのつらい症状を軽くする他、乳幼児や高齢者などの重症化を予防するためにも重要です。また、休養と水分を十分にとることも必要です。そして、インフルエンザを拡げないためには、無理をして登校や出勤をせず、人に感染させる力があるとされている解熱後48時間および症状発現後5日はむやみに屋外へ出ず室内で安静にして過ごしましょう。

(病原微生物検出情報：2018年2月2日 作成)

(表1) 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



また、治療と同様に重要なのがセルフケアです。インフルエンザウイルスは口腔内雑菌の出すノイラミダーゼという酵素で増殖します。そのため、「マスク」「手洗い」でインフルエンザウイルスが体内に入ることを防御するほかに、「歯磨き」「口腔ケア」が効果があり、特に高齢者のインフルエンザ発生防止に役立つ可能性があるといわれています。他にもインフルエンザ流行期に気をつけることは、なるべく人ごみを避ける、適度な湿度（50%程度）を加湿器などで保つ、睡眠や休息を十分に取る、そしてバランスのよい食事を取る、などが大切です。

【関連ホームページ】

- ・<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/#influenza>
- ・ <https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-m/flu-idwrc.html>
- ・ <http://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/special/pandemic/topics/201801/554613.html>
- ・ <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>
- ・ <http://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/file/dl/File01.pdf>

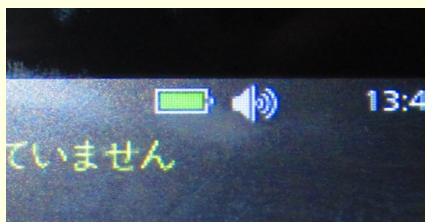
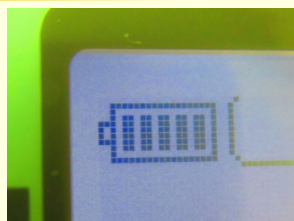


医療機器のバッテリー使用可能

時間について

医療機器には、バッテリーを搭載しているものがあります。しかし、有効な時間は一律ではなく、それぞれの機器によって決まっています。

例えば輸液ポンプでは、新品、満充電かつ特定の条件の下で、持続使用可能時間は約90分です。そのほかの機器については、各々使用する機器によって有効な時間に違いがあります。使用する際には、必ずバッテリー容量を確認してから使用して下さい。バッテリーの残量警報が鳴った場合、残り時間は各機器によって違いがありますので、速やかにACコンセントにつないで下さい。



ME部 片山 靖史

編集後記



年度が替わり、新生活を始められた方も多いのではないのでしょうか。新たな出会いや引っ越しなど、環境の変化で体調を崩すことのないよう十分お気をつけ下さい。

さて、このニュースレターですが、医療における安全文化が根付いていくように、今年度も年3回の発刊を通して様々な取り組みやトピックスをご紹介していく予定です。今回は、手術室での安全に対する取り組みが紹介されていました。手術の始まりから終わりまで、準備や確認を怠らず臨機応変に対応して下さる看護師さん。同じ病院内で勤務していても、他の部署の業務については知らないことが多々あります。お互いを知り、皆で事故防止に取り組めるような情報提供に励んで参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

〈宗村麻紀子 記〉



『編集担当』

医療安全管理ニュースレター編集委員会  
有馬光一（委員長）・別所竜蔵・金 徹・  
花澤みどり・岩井智美・片山靖史・  
岡本直人・矢野綾子・渡辺郷美・原田光枝・  
宗村麻紀子

【ご意見募集】

皆さまのご意見をお待ちしております。  
電子メールアドレス：h-newsletter@nms.ac.jp

【お知らせ】

当院のホームページから閲覧できます。  
ホームページアドレス：  
<https://www.nms.ac.jp/hokuso-h/>

